

タマシイはひたすら

びっくり体験と

わくわくアイデアだけを求めて

あなたにやってくる！

長堀優

池川明

産婦人科 池川クリニック 院長

育生会横浜病院 院長



魂の目的はたった一点「成長発展」
すなわち「情報の更新」のみです！
だから国際銀行家、
オレオレ詐欺の頭脳プレーも実は
たくましい魂の更新だったりして〜!?
——超問題発言だらけの二人の医師の
ミタマ談義、覚悟してお読みください！



ヒカルランド

人間が生まれるときは家族を変えるチャンスですが、死ぬときもやはりチャンスです。

家族関係を見直したり、

人間関係を見直すチャンスを、

亡くなっていく人が残された人にプレゼントするのです。

それを受け取るかどうかは、

もらった人次第ですが、

そういう思いで

亡くなっていく方が

多いのではないかと思えます。



池川 明

魂があることを前提にすると、

じつは、人生や医療は、

ドラマティックに変わってきます。

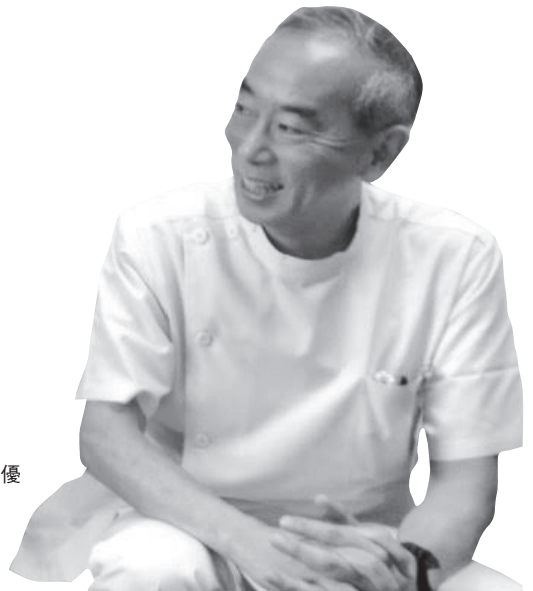
なにより、生まれる前は、

私たちはどんなところにいたのか、

そして死んだあとはどうなるのか、

科学では絶対に扱えない問題に取り組むためには、

魂の話を通じて通ることは絶対にできないのです。



長堀 優

マザー・テレサのように

「人を助けることによつて」たましいが成長する……
というのが一般論ですが、

(あらゆる分野の)

あたらしい可能性や手法を探っていくことも、
たましいの成長を促すのではないかと思っています。

そういう意味では、たとえばオレオレ詐欺なんかも案外、
たましいの成長に役立っているのかもしれない(笑)。
手をかえ品をかえ、どんどんやる。

もし、あれをいいことに使つてゆけたなら、
医療や人のために

役立つことに変えてゆけたのなら……。

そんな可能性を思わずにはいられません。



第I部

死んでも魂という意識が残っている!?! /
そんなエキサイティングな世界へお招き致します!

第1章

ついに医者たちも「魂の世界ありだよね」と
感じ始めたのです

16 あやしい話も池川先生といっしょならこころ強い!

19 お産や臨終に立ち会ってきた医者だからこそ伝えられること

21 物質は意識の派生物に過ぎなかった!? 二重スリットの実験の衝撃!

24 大親友のS君とかわした魂の約束

第2章

出産というものにその家の呪いを解くための
ヒントがぜんぶ入っている!?

- 34 これもあり、これもある／長堀先生と私の共通する世界観
- 37 知ってれば知っているほど、外れることの怖さを知っている
- 39 ふしぎな子どもたちがどんどん現れてくるまで……
- 43 子どもたちは知っている大人にだったら話してくれる
- 45 信じる人と信じない人とは現実化する現象は二分化する

第3章 機械的唯物論の世界からなぜ目覚めてしまったのか

- 48 ふつうの外科医であった私を変えたもの
- 49 私が勤務した病院で目撃される影「鎧武者と水兵」に感じたこと
- 55 患者さんは「旅立ち」が近づくと目の焦点がずれてくる

第4章

流産・死産でも生まれている! 赤ちゃんの想いはお母さんの完全想定外

- 57 こちらの話を聞いていたのかも!? 人工呼吸器につながれた患者さんとの突然のお別れ
- 60 「係りの人がまだ来ていない!」旅立つ前日にそう言っていた90歳の患者さん
- 64 けっして知るはずのない亡き父のことを語った娘さん
- 66 医療の現場にたつ私にブライアン・ワイズ博士の『前世療法』が与えてくれた大転換とは?
- 70 退行睡眠で前世を探ってみたら、ネイティブ・アメリカンのジムニ君だった!?
- 80 考えが変わるきっかけはブループリントで仕組まれている
- 84 退行睡眠で出てくる胎内記憶は事実なのか、それをずっと知りたかった
- 86 看取りの場面も誕生の場面も魂の世界を知っていればぜんぶ乗り超えられる
- 89 赤ちゃんに聞いた「お母さんの体の中で感じる五感」のこと
- 92 虐待をとめるために生まれてくる子どもたちと過去も祖先も変えるその仕組み
- 95 流産も幸せにするためにある!?
- 99 死ぬ人／生まれる人、霊的観点から見た医療現場のトラブル

101 「夫婦生活がなくても妊娠しました」という宇宙人さんが続々と……

第5章

死は存在しない／ これがエドガー・ケイシーのリーディングの核心

106 世界はケイシーの予言した方向に動きつつある

111 死とはバラバラに分離した「神のエネルギー」が個から大元に戻るだけのこと

114 寝入りばな、まどろみ、7・8ヘルツの脳波に人間変容の秘密が詰まっている

117 ガンマ波、シータ波、アルファ波／超意識へのつながり

124 解脱こそは、生きてあの世（大宇宙の大元）に達する方法である

128 素粒子の一個一個がそれぞれ意志、知性、感性をもっている!? こんな無限大の可能性が見えてきた

136 私たちは神さまが退屈して壊した世界「素領域」の宇宙に生きている!?

140 神さまも私たちの魂もこの世の出来事の外から「現実」を覗き込んで遊んでいる!?

142 靈魂は一瞬で完全調和の一部にもなり、その全体にもなれる!

145 生物（生）と無生物（死）は全く同一の素材でできている

第6章

病院は好きなレストランに行つて
好きなメニューを頼むように利用すればいいだけ！

- 150 意識の粒子パラサイトフェルミオンが輪廻転生を証明するかもしれません
151 赤ちゃんには五感がない!? 見るも、聞くも、嗅ぐも全部皮膚感覚
154 科学の世界はいまだに人間機械論／おくれてるね
156 宗教の世界でも科学化が進行中!?
- 157 おカネは不必要には要らないけれども、必要なカネは要る!
158 私の胎内記憶は文句を言いたい人の生きがいの役に立っている?
161 セカンドオピニオン／あなたは治療のメニューを自分で選んでいいのです
163 医者はシェフ、黙っておれの料理を食えみたいなお店にはいかなくていい!
166 これからは医療も自分で選び取っていかなくてはいけないのです

第7章

あなたの魂は一部にも全体にもなれる／
神の「素領域」に属している！

170 魂は神の視点からあなたの「現実」を楽しみ尽くしている?!

175 「死」の恩恵／とてつもない大きなどんでん返し

183 宇宙には悪いことなど何も起こらない

193 天寿を全うし、存分に生き切った人は、みなピンピンコロリです！

第8章

医学教の教義は「1分1秒でも長く生かす」／
こんなものに付き合う必要はまったくありません！

204 死産や流産した赤ちゃんは全然悲しんでないということを伝えたい

206 人間の欲得で死をコントロールするのはよくありません

207 これがいい看取り、いい死に方です

208 恨みつらみを味わい尽くして感謝に変えていく方法

212 自身の存在そのものが産んでくれた人、育ててくれた人の愛の結晶
214 苦勞した人がスターです、この世では思いどおりにならないのがいいのです
217 みんな悲劇のヒロインが大好き！

第Ⅱ部

**魂が目的とする成長はひたすら「情報の書き換え」／
だからオレオレ詐欺も実は成長している!?**

223 ところどころに設置されている魂の落とし穴／これを塞ぐのは愛だけ
229 占いに支配、洗脳されない生き方を選択しましょう
233 「たま」がミタマで「しい」が感情、我／2つがいつしよで魂になっている
237 国際銀行家の頭の良さは魂の目的情報の書き換えに寄与している!
241 診療ガイドラインさえ守っていれば廃人にしても訴えられないからOK!? 「何を目的に医者になったの」と言いたい!
246 今の医療は患者さんの個々の背景はまったく考慮されない!?
249 抗がん剤に「ロナウド」とか名前をつけていた「死ぬ死ぬ詐欺」の人!?

- 251 医療界もお布施を治療費という名前で置いていけば立派な宗教です!?
- 254 医療者の言葉の大事さ／死んでもいい、死んじゃいけないと思えないからつい言い過ぎちゃう
- 257 死ぬのはいけないという思いを外す!?!／人間はあしたのことさえ誰もわからない
- 260 公立の保育園で1620名／データに基づいた胎内記憶の論文はすごい!
- 263 医療者は訴訟があるので変われない!? だから妊婦さんから変えていく……
- 266 自分自身を変える／「医療に治してもらおう」から「治す鍵は自分の中にある」へ……
- 268 今後の活動／「胎内記憶を世界へ」と「死への向き合い方を変える」こと
- 270 医者も患者さんも一緒に成長しないとイケない時代
- 273 イケガワの胎内記憶は今や世界に布教中!
- 277 批判も勲章／2ちゃんねるも今や胎内記憶が「ある」へ……
- 279 虐待される親を選んで虐待されないようにかわいく生まれてくる子のチャレンジ!
- 281 目の前にあるのに意識がないと見えない、見ても見えない話
- 284 生まれたときはもちろん、おなかにいるときも「赤ちゃんには意識がある」と思っていていい!
- 286 皮膚が落ち込んだのが脳、触覚には五感が全部そろっている!?

第 I 部

死んでも魂という意識が

残っている!?! /

そんなエキサイティングな世界へ
お招き致します!

第1章

ついに医者たちも
「魂の世界ありだよね」と感じ始めたのです



長堀 優

あやしい話も池川先生といっしょならこころ強い!

この本を手を取っていただき、誠にありがとうございます。

私は、長堀優と申します。

池川明先生のお名前はご存じでも、私のことは知らないとおっしゃる方は多いことでしょう。本書で皆様とこのようにつながることができたのも、なんといいっても、池川先生のおかげです。その池川先生と一緒に執筆できる日が来るなんて、夢みたいです。

じつは、池川先生ほどではありませんが、私も、これまで本を出版しています。しかし、もともとは外科医です。大学を卒業してから30有余年、おもに救急医療や、がん治療に携わってきました。そして、手術ばかりではなく、たくさんのお患者さんの看取りもしてきました。

一方、池川先生は、この地上における人生のスタートとなる出産に関わってこられました。

私たち二人が、それぞれ身を置いてきた医療の現場は、いってみれば、人生の始ま

りと終わりです。一見まったく正反対に見えます。

しかし、身体を超えた、見えない命を意識すれば、出産も旅立ちも、じつは深いところでした。しっかりと繋がっています。どちらも人生における一大イベントですが、こんなときには、身体を超えた存在を感じさせるような、不思議な出来事が得てして起こるのです。

池川先生も私も、じつは、常識はずれのびっくりするような体験をいろいろしてきていますので、共感するところがとても多いのです。ですから、これまでいく度も一緒に講演をさせていただいてきました。本書では、そのような機会に共に語り合ってきたことを、一層深めていきたいと思います。

ところで、ここまでは、「見えない命」とか、「身体を超えた存在」とか、回りくどい言い回しをしてきましたが、ここからは、ズバリ「魂」！ という言葉を使わせていただきます。

医者が魂について語るなんて、と驚かれた方もいらっしゃるでしょう、しかし、ついにこんな時代が来たか、と納得される方も少なくないはずです。

私のまわりをみれば、魂なんか、ときっぱり否定されるお医者さんが、まだまだ多数派です。でも、魂の世界もありだよ、と感じているお医者さんもそこそこいるこ

とを、私は知っています。

もつとも、これまででは、たとえそう思っていたとしても、常識あるお医者さんたちは、うっかり口に出したりするような軽率な真似はしませんでした。そんなことしたら、患者さんからあやしがられたり、仕事先で自分の立場が危なくなったりするのが関の山、なんにも良いことなんかありませんから、当たり前ですよね。

でも、最近、世の中が変わってきました。

twitterとか、facebookなど、SNSと呼ばれるインターネット上の交流サイトが盛んになってきたので、「ちょっと変わったお医者さんたち」が、お互いに連絡を取り合えるようになってきたのです。そして、SNSを通じ、皆で意見を交換したり、実際に会って話しているうちに、ひよっとしたら、自分はそんな変わってないかもしれない、などとあぶない自信までついてきてしまいました。とにもかくにも、私にとっては、じつに面白い時代になってきたのです。

そんな世の流れを踏まえ、この本では、魂について、あけっぴろげに語り合っています。今回は、なんとといっても、池川明先生とご一緒です。こんなに心強いことはありません。ぜひご期待ください。

お産や臨終に立ち会ってきた医者だからこそ伝えられること

さて、これまで、この国では、魂はもちろん、見えない世界は無いことにして、物質的な豊かさや、経済効率を追い求めてきました。それはそれなりに成功し、私たちの生活を格段に便利なものにしてくれたことは間違いありません。

しかし、その一方で、モノに溢れた裕福な社会が、人々の心に安寧あんねいをもたらしただけか、と言えば、大いに疑問が残るところです。所詮、モノが有限である以上、欲望のままに求め、あるときは人から奪い争い、自分が手に入れることだけを考えていては、今の社会、経済システムが長く続くわけはありません。実際に、環境も、食も、そして、人々の心や体のバランスも、かなり歪みが生じてきています。

とはいえ、世の中が、ここまでおかしくなってはじめて、わずかながらの変化が起き始めたように、私には感じられるのです。

人間を真に幸せにするのは、どうやらモノやお金ではないらしい、そのことに、今、少なからぬ人が気づき始めているのではないのでしょうか。

サン・テグジュペリは、拝金主義、物質至上主義が蔓延はびこり、見えない世界がないが

しろにされる今の時代を、あたかも見通していたかのような一言を残しています。

「大切なものはね、目には見えないんだよ。目では見えない、心で探さないと」

名作『星の王子さま』で語られているこの言葉は、人生で本当に必要なもの、これからの世界で必要とされる心構えを、見事に言い当てているようです。

物質文明の限界がみえてきたこの時代にこそ、目には見えない大切なものを考えることが必要となり、そこには間違いない、「心」や「魂」が入ってくると私は考えています。

そもそも、魂があることを前提にすると、じつは、人生や医療は、ドラマティックに変わってくるのです。さらに、生まれる前は、私たちはどんなところにいたのか、そして死んだあとはどうなるのか、このような科学では絶対に扱えない問題に取り組むためにも、魂の話を避けて通ることは絶対にできないのです。そうはいっても、有史以来、人類が挑んできた哲学的なこの大命題に、たかだか医者の方際で斬り込んでいこうというのですから、身の程知らずもいいところ、なのかもしれません。しかし、私は、不遜を承知で申し上げれば、お産や臨終に立ち会ってきた医者だからこそ、伝えられることもあるのではないかと考えています。

物質は意識の派生物に過ぎなかった!? 二重スリットの実験の衝撃!

もし、魂というものがあって、死んでも意識が残るといふなら、「生まれてくること」や「死ぬこと」に対する見方はガラッと変わってきます。

とはいえ、現在の科学では、魂の世界があるのかなのか、証明することなどできません。しかし、これまで、目に見える物質だけを対象としてきた古典的な物理学が、今、大きく揺らぎ始めていることは確かです。従来の常識を、少し広げて考える必要がありはしないか、というのが、私の今の正直な思いです。

一例を挙げましょう。

量子力学の分野においては、「二重スリットの実験」というものが広く知られています。その内容については、後ほど詳しくご紹介しますので、ここでは簡単にご説明にとどめておきます。

この実験により確認できたことを一言でいうなら、素粒子（物質を構成する最も基本的な単位）を観測しようとする、一個の粒子である「物質」として振る舞うのに、観測していないときには、空間的な広がりをもつ「波動」になってしまうという不思議

議な現象でした。

わかりやすく言えば、

「いつもは、『物質』としての実体があやふやな光の玉が、人間が観測しようとする
と、突然小さなボールに変わるようなもの」

といってもよいでしょう。目に見える世界では、到底ありえないことです。その上、
あたかも人の意志を読み取っているかのような行いにたいへん驚かされます。

しかし、何千回となく繰り返され、実証されている「二重スリットの実験」の結果
を疑う物理学者は、もはやどこにもいません。この実験により、これまでの物理学的
な常識が、根底から覆されつつあるのです。

なぜかと言えば、古典的な物理学では、宇宙で起こるすべての事象は「物質」によ
って起こされると考えられてきたからです。宇宙を構成する究極の「物質」とされる
「素粒子」は、あくまでも「物質」でなければなりません。

ですから、「素粒子」が、「物質」としての実体ははっきりしない「波動」のように
振る舞うなど、それまでの科学的常識ではまったく考えられないことだったのです。
なによりも、「波動」や「物質」が、観測者の意志を推し量るなどということが、ど
うしてあり得るんでしょう、ペットの犬じゃないのですから。

でも、「二重スリットの実験」が示した事実に基づいて考えるなら、「その存在に気づいたり、意識を寄せることにより、エネルギーが粒子に変わる」、さらには、「人の心次第で、エネルギーから物質が生じる」という仮説も、頭ごなしに否定できなくなってくるのです。

この実験は、物理学の世界に、計り知れないほどの強烈な衝撃を与えました。量子力学の生みの親であるマックス・プランクも、この結果について、

「意識は物質よりも根源的で、物質は意識の派生物に過ぎない」と驚きを持って受け入れています。

この論理をそのまま解釈するなら、物質と意識の因果関係は逆転します。

つまり、もし意識が現実を生み出しているならば、意識が脳という物質を生み出す、ということにもなります。であれば、肉体という物質が減しても、意識まで一緒に消滅することはない、すなわち、死んでも意識は残る、と読み解くことも、決して不可能ではなくなってくるのです。

もちろん、以上のことは、あくまでも、ひとつの解釈の仕方にすぎません。しかし、現時点においても、「魂などあるはずがない」、「死後の世界など非科学的」というこれまでの常識が、はたして正しいのか、と疑うことは許されるはずで

私自身はどうかと言えば、これまでの医療現場での体験から、死んでも「命」は続いていくと捉えています。

この前提のもとに、さらに話を進めていきましょう。

大親友のS君とかわした魂の約束

ここで、私の友人S君のことを紹介させていただきます。

中学、高校時代からの友人である彼は、大学の工学部を卒業後、コンピューター関係のエンジニアとして、いわゆる大手企業に勤め、その後、英国にも2年留学し、工学博士号を取得しました。

少々理屈っぽいところがあり、時々閉口することもありましたが、いっしょにスキーにいたり、飲みに行ったりしたかけがえのない友人でした。

ところが、毎年受けている健診で、S君の胃にがんが見つかり、胃を全部取る手術が必要となりました。私は、自分が最も信頼する外科医の友人、T医師にS君の手術を頼み、全面的に託しました。幸い、がんは早期であり、全部取りきれたことが確認され、一安心していました。

ところが、その後、S君をさらなる苦難が襲います。体調も戻り、やっと落ち着いたと思っていた矢先、今度は白血病がみつかつてしまったのです。

彼は、何かを感じたのでしょうか、胃の手術を受けた大きな病院ではなく、地元の病院か、私の勤務する病院での抗がん剤治療を希望しました。

しかし、私は、もし抗がん剤治療を受けるなら経験の豊富な専門医がいる病院が良いだらう、とS君に勧めました。彼は、私のアドバイスを素直に受け入れ、胃の手術を受けた病院に再度入院することになりました。

5月下旬のある日のこと、彼は、一回目の抗がん剤治療を受けるために入院しました。

抗がん剤治療は一回で終わるのではなく、同じ療法を数週間おきに何度も繰り返します。繰り返しうちに抗がん剤が蓄積し、副作用が強く出現するようになれば、投与量を減らすなどの調整を行っていきます。俳優の渡辺謙さんを見るまでもなく、血液のがんは、抗がん剤療法の効果が期待できません。今回は初回の治療でもあるし、彼も比較的若いので、あまりきつい副作用は出ないのでは、と私は考えていました。退院して落ち着いたら、私が時折顔を出しているヨガのサークルに、二人で参加することを約束もしていたのです。

さて、彼が入院してまもなくのこと、私は、彼を励ますためにお見舞いに行きました。胃がんに続いている入院ということもあって、彼は、かなりショックを受けている様子でした。

私は、落ち込む彼を相手に、一緒に行ったスキーの思い出など、取り留めのないことをいろいろ話し続けました。

そのうち、今思ってもまったく唐突なことだったので、私は、

「変なことを言うかもしれないけど、僕は、魂は永遠と思っているんだ」

と口走ってしまったのです。

彼とは、このような話をこれまでにしたことはありませんでした。思わず口に出してしまったことが自分でもとても意外でした。なんととっても、治療開始前のデリケートな時期でもありましたし、私は切り出してから、すぐさま余計なことを言ってしまったのでは、と後悔しました。

彼は、根っからの理科系で、コンピューター関係の仕事を続けてきています。理詰めで物事を考える、左脳型人間の典型といってもよいでしょう。もし、彼が話に乗ってこない、気まぐれな雰囲気には包まれません。

しかし、S君の次の一言が、その場の空気をガラッと変えました。

彼は、やや俯うつむけていた視線を上げるや、私の顔をじっとみつめました。そして、私の透しゆんじゆん巡を見透かしたかのよう

「なにをためらっているんだい？　自分が信じているのならどんどん話したらいいんだよ。全然変なことじゃないよ。自信を持ってよ」

と言って、ニツコリとほほ笑んでくれたのです。

なんとも意外な彼の一言に、私が一瞬呆気にとられていると、すかさず彼は続けて、「今回、抗がん剤を受けてみるけど、そうだな、副作用で苦しんでいるところは見てほしくないから、6月10日ごろ、その頃には落ち着いていると思うから、お見舞いに来てくれないか」

と言ったのです。

お見舞いに来てくれなんて、自分の方から言うような男ではありませんでした。

しかも、日付を指定したことにどんな意味があるのだろう、と私はちよつとした違和感を覚えました。しかし、まず、彼が魂の話を確認してくれたことが嬉しく、またホツとしたこともあって、そんな違和感など、すぐに忘れてしまいました。

私は、頷きながら、

「わかった、じゃあ、その頃に必ず来るから」

と答えました。そして、彼のニッコリとした笑顔に見送られ病室を出たのです。さて、運命の日とも言うべき6月10日は、あつという間にやってきました。その日の朝、彼の胃の手術をした友人、T医師から突然電話が入りました。彼は、電話が取り次がれるや、挨拶を交わす間も惜しむかのように、いきなり

「S君が脳出血を起こした、今から人工呼吸器を装着する」と告げてきたのです。

私は、頭をハンマーで殴られたような衝撃を受け、一瞬頭の中が真っ白になりました。

よく聞けば、抗がん剤の副作用で血小板（出血を止める働きがある）が減って脳出血を起こし、敗血症を併発したらしい、とのことでした。

夕方、頭の整理もつかぬまま、彼のもとをたずねます。

物言わぬ彼は、人工呼吸器につながれ、目を閉じ静かにベッドに横たわっていました。

先日のお見舞いの際、ベッドの上に座ったまま、帰る私に向かって手を振っていたS君の笑顔が、脳裏にまざまざと蘇りました。

なんとか持ち直してほしい、まだ50歳、元気になったら、また一緒にスキーに行き

たい、魂について、あの続きをもっと語り合いたい、私の胸には、さまざまな思いが去来しました。

そのとき、彼が6月10日に見舞いに来てほしい、と言っていたことに思いが至り、その偶然に鳥肌が立つ思いがしました。

さらに、この病院への入院に、彼が気乗りしない様子であったことも思い出されてきました。ひょっとしたら、S君は、漠然ととにかくを感じていたのかもしれない。

彼は、そのまま意識を回復することではなく、2週間後に息を引き取りました。

他の病院に行っていたら、結果は異なっていたのだろうか、余計なことを言ってしまったのだろうか、と私には悔やみきれない思いが残りました。私にとっては、一生忘れることのできない痛恨の体験となりました。

あれから9年が経ちました。彼のことは、折に触れ、思い返しています。そして、彼と交わした「魂」の約束も、すっかり覚えていません。

しかし、これまで、その約束を果たせずにいました。現役の医師として、魂について真正面から語ることは、私には高いハードルであるように感じられてきたからです。自分自身、さらに経験を積み重ねるとともに、このような話を受け入れる人が増え、社会がもう少し変わることが必要と考えていたのです。

時代は移り、物質主義が極まった現代社会は、すっかり落ち着きがなくなり、出口のない袋小路に入ってしまったかのようにも感じられます。相次ぐ国際紛争に加え、地球の環境は悪化の一途をたどり、激烈な自然災害が次々に襲い掛かってきます。

かのアインシュタインは、次のような言葉を遺しています。

「我々の直面する重要な問題は、その問題を作ったときと同じ考えのレベルで解決することはできない」

この言葉に従うなら、物質主義や拝金主義が引き起こした現代社会の問題を解決するためには、これまでの価値観を大きく変える必要があるということになります。

今求められる価値観の変換とは、目に見えるものにはか価値を見出さない考え方から少し距離を置き、見えない世界ともしっかりと向き合う、ということに他ならないと私は考えます。もちろん、見えない世界には、魂が間違はなく含まれてきます。

混沌とした社会に生きる私たちは、今すぐにも価値観の転換を図る必要があると私は思います。もう、私たちには、時間的な猶予は、あまり残されてはいないのでないでしょうか。

S君の言葉、

「なにをためらっているんだい？ 自分が信じているのならどんどん話したらいいん

だよ。全然変なことじゃないよ。自信を持ってよ」

が再び、私の頭の中で強く響き始めています。

ついにS君との約束を果たす時期が来たようです。

本書では、池川先生とともに、さまざまな角度から魂がどういうものであるか考えていきます。

魂と向き合うと、人生の悩みや苦しみ、そして死に対する思いも、ガラッとその意味合いを変えてきます。そして、死が決してネガティブなことではなくなってくるはず。

この世における使命を果たし、十分に生き切ってその日を迎えれば、悔いなくこの世を卒業できます。であれば、旅立ちの日も決して苦しくありません。

魂と向き合うことは、そのまま、人生をどう積極的に明るく生き抜くか、を考えることです。

魂を見据えれば、人生が、そして社会が間違いなく変わります。

同じような思いの人も、ぐっと増えてきています。

今こそついに、堂々と魂を語り合うべき時代が来たのです。

どうぞ最後までお付き合いください。よろしくお願いいたします。

死んでも魂という意識が残っている!?!／そんなエキサイティングな世界へお招き致します!

それでは、
ここで一度、
池川先生に
バトンをお
渡ししまし
ょう。

第2章

出産というものに
その家の呪いを解くためのヒントが
ぜんぶ入っている!?



池川 明